



「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラム



国立大学法人 大阪大学

1



大阪大学の教育・研究組織

学 部	11	文 人間科 外国語 法 経済 理 医 歯 薬 工 基礎工
大学院研究科	15	文 人間科 法 経済 理 医 歯 薬 工 基礎工 言語文化 国際公共政策 情報科学 生命機能 高等司法
附置研究所	5	微生物病 産業科学 蛋白質 社会経済 接合科学
附属病院	2	医学部 歯学部
全国共同利用施設	3	核物理研究センター サイバーメディアセンター レーザーエネルギー学研究センター
図 書 館	4	本館 生命科学分館 吹田分館 箕面分館
学内共同教育研究施設	19	大学教育実践センター 留学生センター 保健センター コミュニケーションデザインセンター グローバルコラボレーションセンター 世界言語研究センター 日本語日本文化教育センター 他 12施設

2

11学部 15研究科 学生数 約25,000名

学部学生	16,339名
大学院学生	8,041名
専修学校生	41名
研究生・聴講生・科目等履修生等	922名
女子学生	8,214名
留学生	1,390名
社会人学生	?名
配偶者、子供を持つ学生	?名
支援を必要とする障害をもつ学生	22名

3

多様な学生に多彩な支援

Variety of Support Services
for the Diverse Students

4

大阪大学のルーツ

懐徳堂 享保9年(1724) 大坂町人5人が発起人となり学者を招いて創設した学問所

適塾 天保9年(1837) 緒方洪庵が医業を開業すると同時に創設した蘭学塾



懐徳堂幅



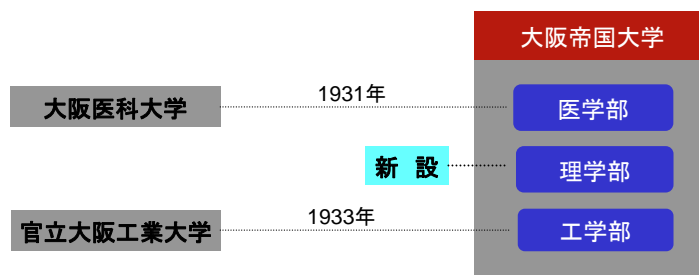
適塾

5

大阪帝国大学の創設

大阪医科大学、大阪府、および財界が一致協力して運動

創設費用および創設後3年間の費用を財界が負担する条件(懐徳堂の設立と同じ考え方)で、1931年に開設された

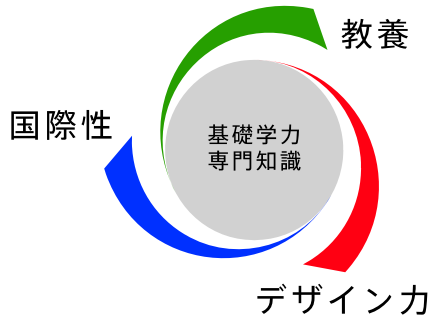


目的 「産業界が期待する技術開発のための基礎研究に対応する」

6

大阪大学の教育目標

地域に生き 世界に伸びる Live Locally, Grow Globally



| 教養

社会的教養・判断力の育成

| デザイン力

自由な構想力と表現力の育成

| 国際性

異文化共生能力の育成

しなやかな専門家

阪大スタイル

2004
大学教育実践
センター

2005
コミュニケーション
デザインセンター

2006
学際融合教育研究
プラットフォーム

2007
グローバルコラボ
レーションセンター

7

学生の考えた大阪大学のキャッチコピー



描いた未来を 迎えに行く

工学部地球総合学科 2年次 一岡翔太郎君

21世紀に生きるわれわれには将来に対する明確なビジョンを描く**創造力**＝「未来を描く力」、そしてその未来を実現するための**行動力**＝「未来を迎えに行く力」が必要である。これらの力を身につける大学の環境そして学生のやる気、自主性が大阪大学にある。そして、もっとたくましく勉強、研究し、これらの力をつけてほしい。(2004. 5)

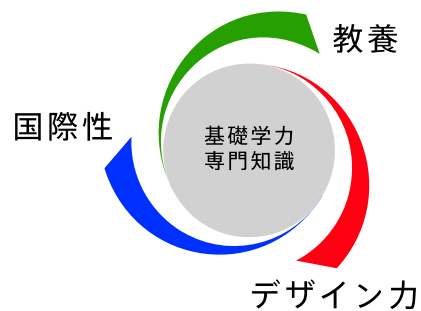


8



市民社会におけるリーダーシップ養成支援

- 市民社会にロイヤリティを持ち
- 市民社会でリーダーシップを発揮する
- 「阪大スタイル」の人材育成

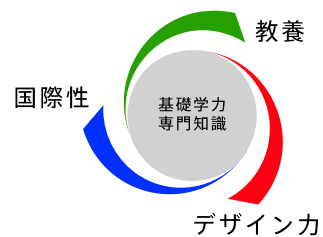


9



市民社会におけるリーダー

- Common Sense, Good Sense
- 対話力、企画力、構想力、想像力
- 多文化共生能力
- 社会における組織のあり方を理解し、
望ましい方向に引っ張っていきける力
- 市民のモデルとなる市民



10



プログラム概要

- 対象学生
 - 学部学生の1～2% (各学年50名以下)
主にクラスやサークル、ボランティアなどで中心となって活動している学生
 - 公募による選定
意欲ある主体的な学生のリーダーシップを養成支援
- 実施体制
 - 学生部キャリア支援課・学生支援課が主体
 - 学内教育組織が積極的に協力
 - 学生メンターの育成
 - 民間コンサルティング企業のノウハウ利用
- ワークショップ型研修
 - 目標設定
 - 問題意識の共有
 - 課題の実践



ワークショップ型研修 (OUDSL) スケジュール

OUDSL = Osaka University Development Seminar for Leaders

	春(4月～6月)	夏(7月～9月)	秋(10月～12月)	冬(1月～3月)
1年生		第1回 OUDSL	リーダーとしてのモチベーションが向上し クラスやサークルでの活動が活発化	
2年生	新入生を迎えての活動	第2回 OUDSL	サークルでは次年度の リーダーの決定	第3回 OUDSL
3年生		第4回 OUDSL		第5回 OUDSL
リーダー活動のカウンセリング				
4年生	代表を 引退	研修のアシスタントとして、自らの経験を学生に還元する		



Osaka University Development Seminar for Leaders

	時期	主テーマ
第1回 OUDSL	1年生 夏	目標の設定と共有 チームビルディングとモチベーションコントロール技術の習得
第2回 OUDSL	2年生 夏	対話力と指導力・国際性 ビジョン設定と対人影響力の習得、多文化共生の理解
第3回 OUDSL	2年生 冬	デザイン力と判断力 プランニングの技術とモチベーションマネジメント技術の習得
第4回 OUDSL	3年生 夏	知の共有・気づき 活動内容の振り返りおよびプランニングの習得
第5回 OUDSL	3年生 冬	次世代への継承 メンター育成のためのアクティブリスニングスキルの習得

13

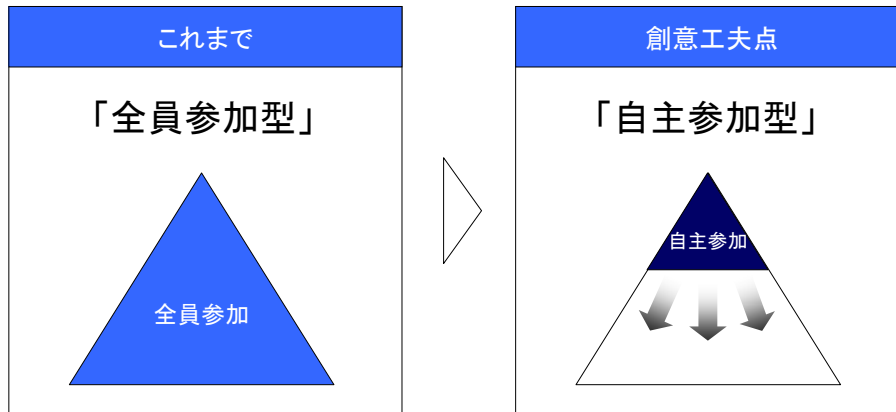


プログラムの特徴

- 1 クラスやサークルで核となりうる学生をリーダーとして養成
- 2 気づき型、実践型の参加者主導の対話型プログラム
- 3 メンター制度の構築
- 4 学生部事務職員の積極的関与
- 5 学内および企業の専門知を動員したプログラム開発・運営

14

 クラスやサークルで核となりうる学生をリーダーとして養成



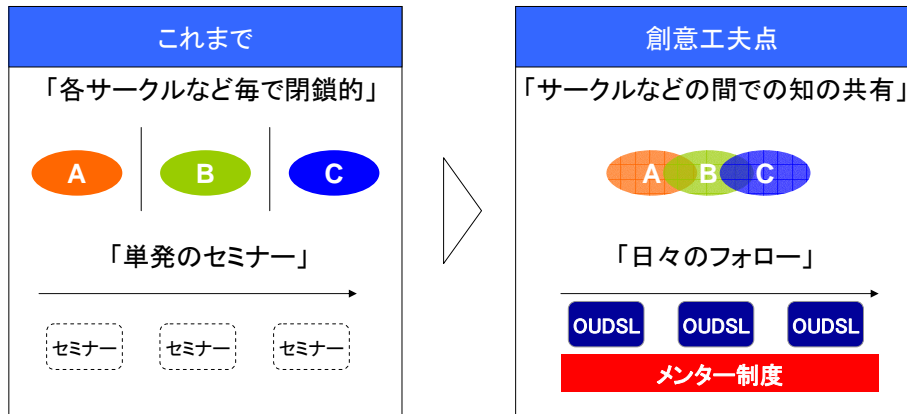
クラスやサークルで核となりうる学生を公募および推薦での選抜し、参加意欲の高い学生を重点的に支援し、この支援の輪を全学に広げていく

 気づき型・実践型の参加者主導の対話プログラム



指導者主導の一方的な知識伝達型の研修ではなく、参加者同士による対話型プログラムを設計し、個々人の気づきを創出
答えはいくつもある

メンター制度の構築



学生のメンターを育成することにより、各々のクラスやサークルでの知が共有される
また、セミナー以外の日々のフォロー体制を構築することが可能になる

17

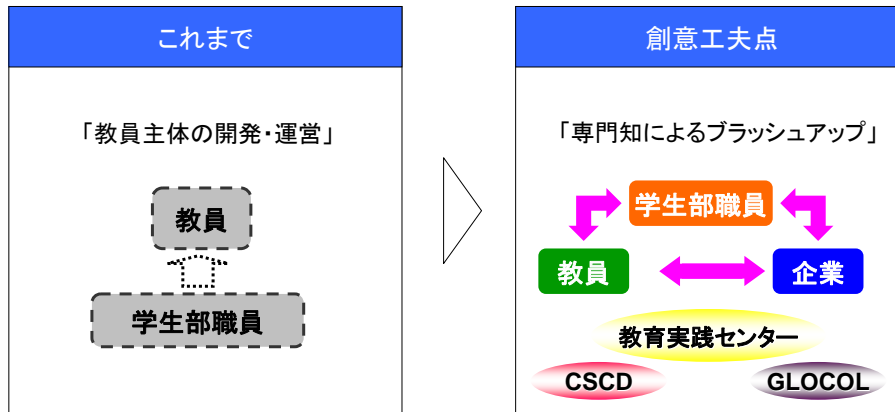
学生部事務職員の積極的関与



学生部事務職員がプログラムの開発と運営に積極的に関与する。
事務職員が学生支援の主体となる。

18

学内および企業の専門知を動員したプログラム開発・運営



学内教育組織と民間コンサルティング企業の専門知を動員し4か年計画によるプログラム開発・運営により常にプログラムのブラッシュアップが可能になる

19

期待される効果

1 デザイン力を持った人材の育成

本プログラムを通じて、リーダーとして必要な考え方や技術を修得する機会を提供し、そこで学んだことをクラスやサークルで実践する。そして、振り返りを行うことにより、経験の知を共有し、さらなる新たな観点を学び、再度、実践展開していく。このようなスパイラル・サイクルを創生していくことによって、市民社会におけるリーダーに必要なとされる社会的変革の実践的なデザイン力を効果的に高めていく。

2 クラスやサークルの活性化と活動内容の質の向上

学生リーダーのリーダーシップが強化されることにより、各々の所属組織であるクラスやサークルのメンバーへの影響から、学生個人の活動への意識と質の向上につながる。こうした重点支援による体得したリーダーシップ力が、分散型リーダーシップとして各組織に連鎖的に広がり、結果的に、学生組織全体の活性化と活動内容全体の質の向上につながる。

20